工具とジャッキ…… 89
パンクしたときは…… 93
万一のときの処置…… 98
こんな故障の応急処置は……101

工具とジャッキ

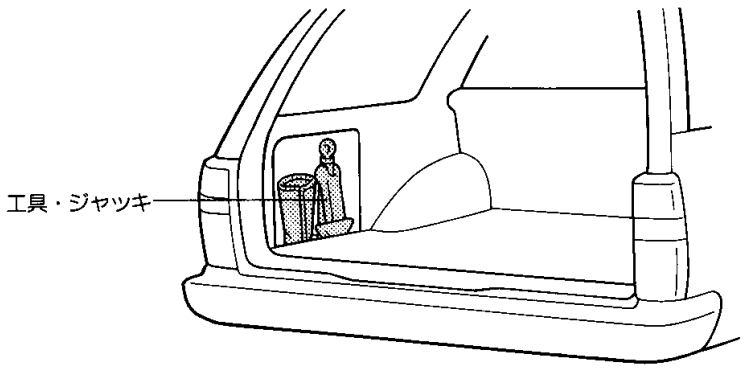
それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。

⚠注意

- ●工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
- ●車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

■格納場所

工具、ジャッキは荷室左側のカバー内に格納されています。

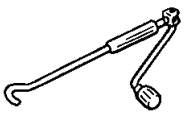


■工具

工具袋の中には、次の工具がはいっています。

輪止め

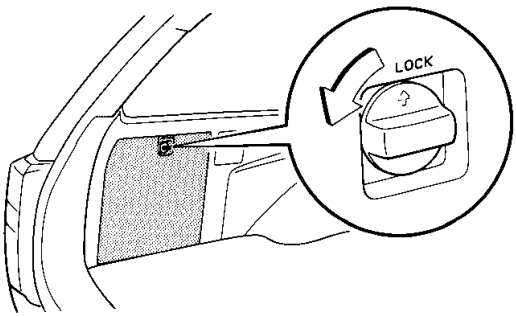
ホイールナットレンチ



ジャッキハンドル

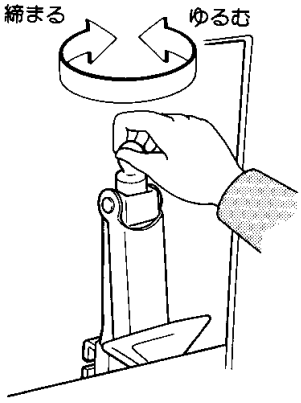
▶工具の取り出し方

ツマミをまわしてロックをはずし、フタを開けて取り出します。



無断複製禁止

▶ジャッキの取り出し方

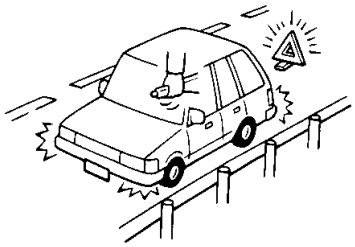


●ジャッキの図の部分をゆるめてはずします。
●格納するときは、ジャッキが固定するようにかみあわせて締めます。

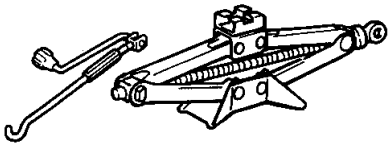
無断複製禁止

■ジャッキアップをする前に

1.交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2.パーキング（駐車）ブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。
3.チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はⓟの位置にします。
4.非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



5.工具やジャッキを取り出します。

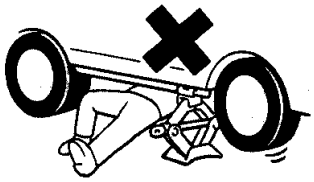


6.輪止めを取り出します。

■ジャッキのかけ方

⚠警告

●ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。

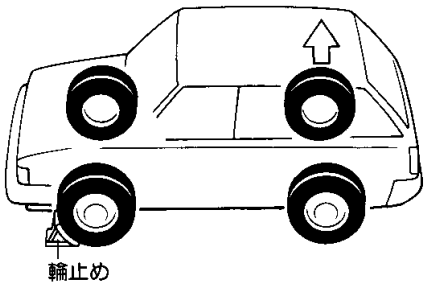
⚠警告

●ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。⇨次ページ参照
●ジャッキが確実にジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてけがをするおそれがあります。
●人を乗せたままジャッキアップしないでください。
●ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。

無断複製禁止

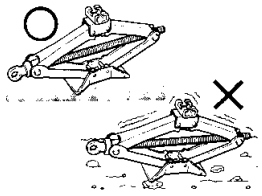
1.ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

●前輪をジャッキアップするときは後輪のうしろ側に、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に輪止めをします。

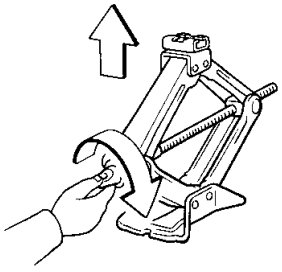


※このイラストは、右側の後輪をジャッキアップするときの例です。

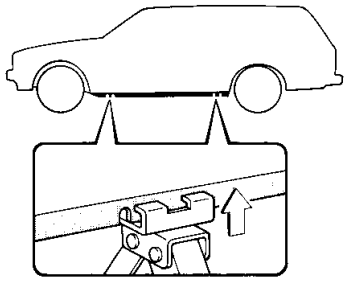
2.地面の平らな固くて安定したところにジャッキをおきます。



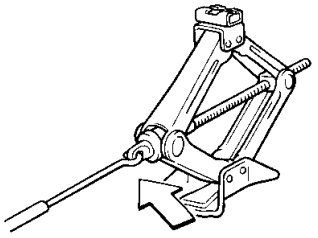
3.ジャッキの図の部分を手で右にまわして、車体のジャッキセット位置まで上げます。



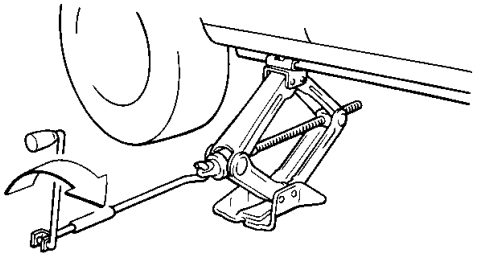
4.ジャッキは切り欠きの間にかけます。



5.ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

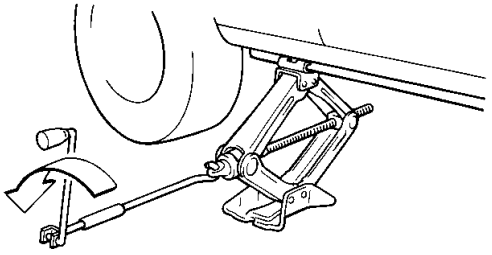


6.ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



■ジャッキの下げ方

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。



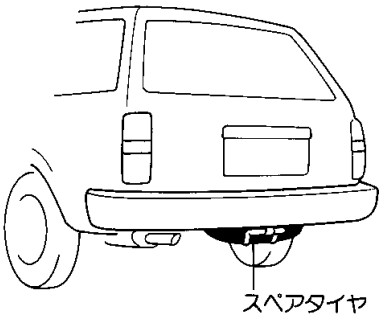
無断複製禁止

パンクしたときは

——①スペアタイヤ

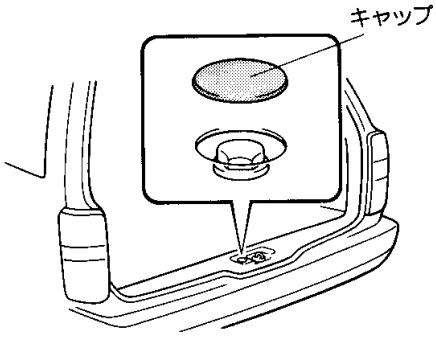
■格納場所

荷室床下部に格納してあります。

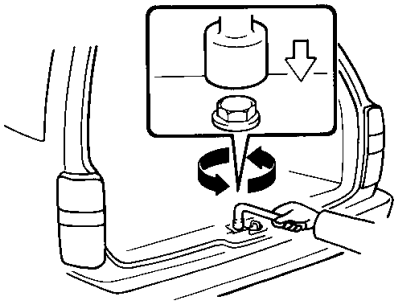


▶取りはずし方

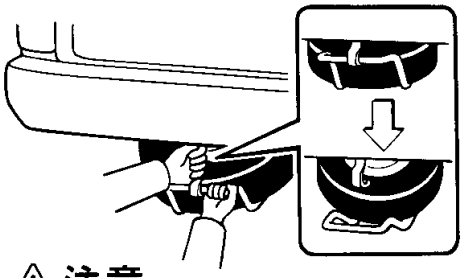
1.荷室床上のキャップをはずします。



2.ホイールナットレンチで床上のボルトを格納具をフックから取りはずせるくらいまで十分ゆるめます。



3.スペアタイヤ格納具を少し持ち上げて、フックを手前に引いてはずし、格納具を地面におろします。



⚠注意

格納具からタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないようにゆっくりと降ろしてください。

4.タイヤを取り出します。

▶取り付け方

1.取りはずしたときと逆の手順で行います。

2.タイヤが確実に固定されていることを確認します。

3.格納具がフックに確実に固定されるように床上のボルトは十分締めつけてください。

⚠注意

●スペアタイヤが固定されていないと、タイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

●スペアタイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

無断複製禁止

パンクしたときは——②タイヤ交換

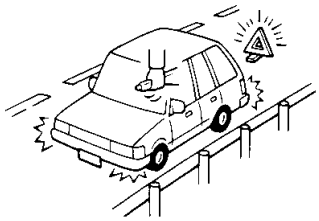
■準備

1.交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。

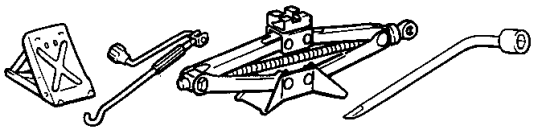
2.パーキング(駐車)ブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。

3.チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はⓇの位置にします。

4.非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。

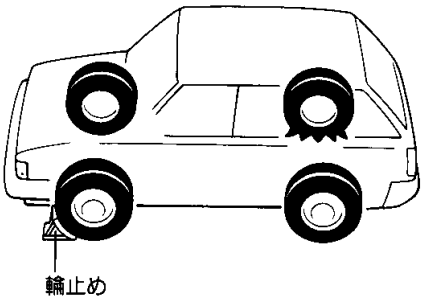


5.工具やジャッキを取り出します。



6.パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

●前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側、後輪がパンクしたときは前輪の前側に輪止をしてください。

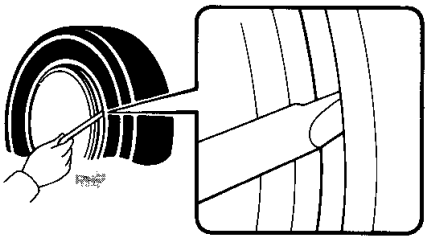


7.スペアタイヤを取り出します。⇨前ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。

8.ホイールキャップをはずします。

▶ホイールキャップの取りはずし方

ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2～3ヵ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)



⚠注意

直接手をかけて取らないでください。
また、取り扱いには十分注意してください。
けがをするおそれがあります。

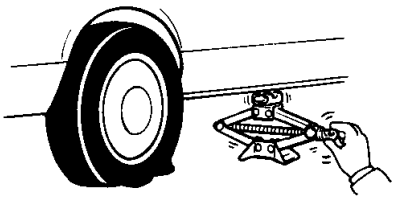
アドバイス

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ホイール、キャップが損傷するおそれがあります。

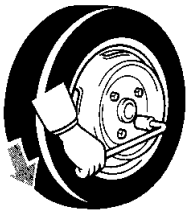
無断複製禁止

■ジャッキアップ

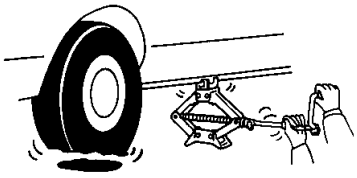
1.取り替えるタイヤに近いジャッセット位置にジャッキをセットします。⇨91ページの**「ジャッキのかけ方」**を参照してください。



2.ホイールナットレンチでナットを左に回し、少し回るくらいまでゆるめます。



3.タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップし、ナットを取りはずします。



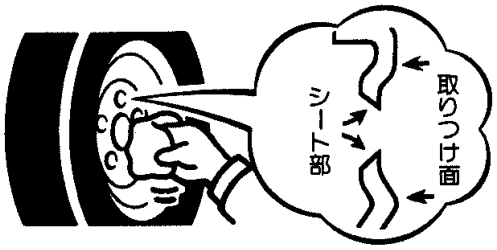
無断複製禁止

■タイヤ交換

1.タイヤをスペアタイヤに取り替えます。

⚠注意

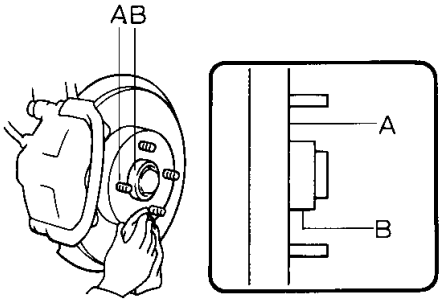
タイヤを取りつけるときは、ホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面のよごれをふきとってから取りつけてください。ホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどでよごれていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。



▶アルミホイール装着車の場合は

- アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。
- アルミホイールを取りつけるときは次の手順で行ってください。

①図のA、Bの面のよごれをふきとります。



②アルミホイールをBの部分に確実にはめます。

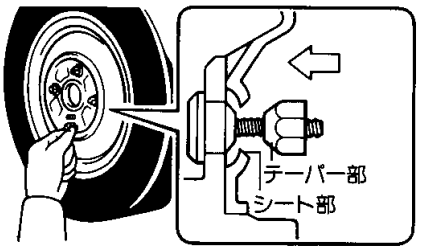
2.タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

⚠注意

タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。

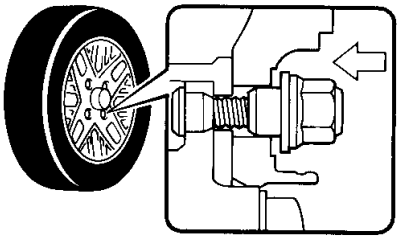
▶スチールホイール装着車は

ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽くあたるぐらいに仮締めします。



▶アルミホイール装着車は

座金がホイールにあたるまでナットを仮締めします。



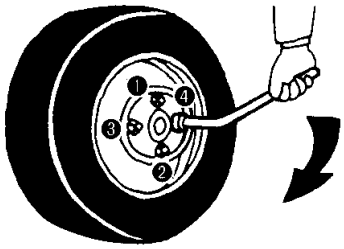
⚠注意

ナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。

3.ジャッキハンドルを左にまわし車体を降ろします。

無断複製禁止

4.ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを2～3度にわたり十分締めつけます。

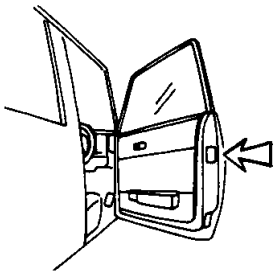


⚠注意

- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- ホイールナットレンチは、ホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。

5.ホイールキャップ付き車は、タイヤのバルブ(空気口)にホイールキャップの穴をあわせて取りつけます。

6.取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



7.工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。
タイヤを格納するときは確実に固定してください。

アドバイス

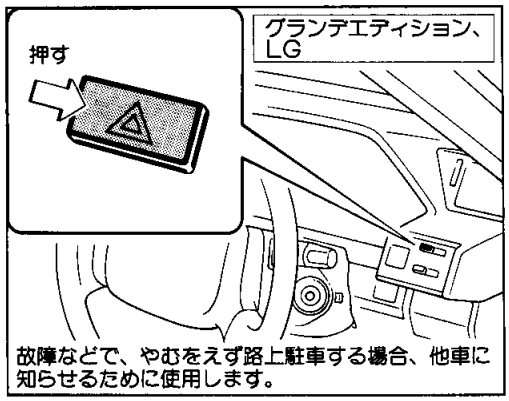
- 傷、変形があるナット、ホイールなどは使用しないでください。
- 1,000km走行したあとに再度ナットを締めつけ、ゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。
- タイヤを新品と交換するときは、異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用しないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

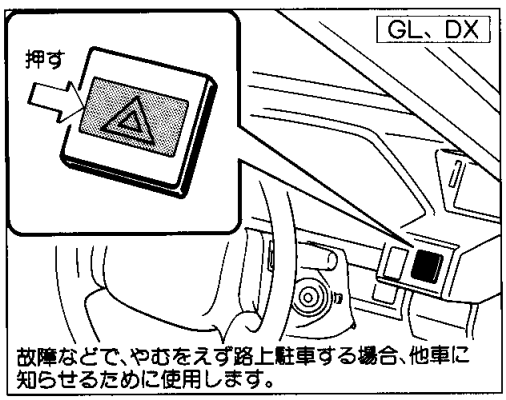
無断複製禁止

万一のときの処置

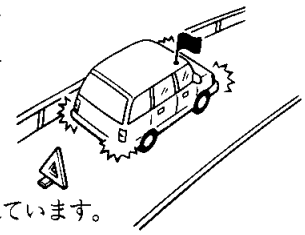
故障したら……

1.車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。

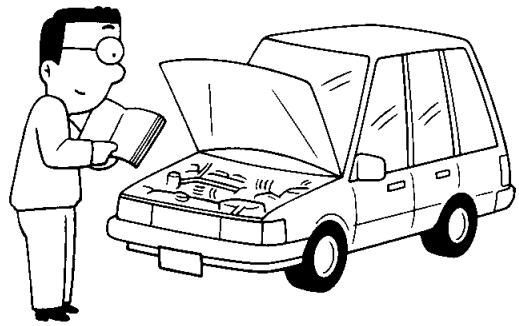




2.高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いてください。
法律で義務づけられています。



▶困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。



無断複製禁止

走行中、エンジンが停止したときは…

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

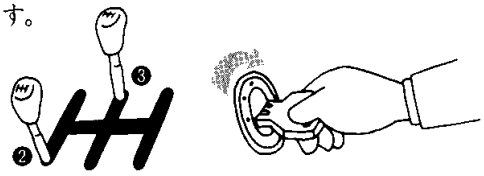
1.ブレーキブースター(ブレーキ倍力装置)が作用しなくなりますので、ブレーキペダルを強く踏んでください。

2.パワーステアリング(ハンドル操作力軽減装置)が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

エンストして始動できなくなったときは…

1.付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。

2.マニュアルトランスミッション車はチェンジレバーの位置をセカンドまたはサードにいれ、クラッチを踏まずにエンジンスイッチをSTARTの位置で保持すれば、緊急避難的に車を動かすことができます。また、平坦路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



●オートマチックトランスミッション車はエンジンスイッチで車を動かすことができません。

踏切内で動けなくなったときは……

脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

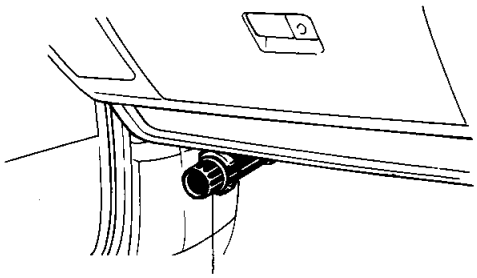
⚠注意

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。⇨次ページ参照

無断複製禁止

発炎筒

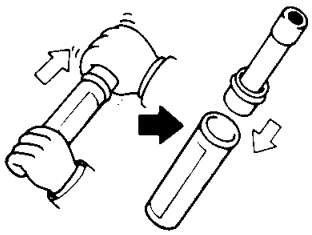
高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使用します。



1.グローブボックス左下部に備えつけてあります。
2.**発炎時間は約5分間です。**
3.発炎筒には、有効期間があります。
本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤー(発炎筒)をお求めください。

▶使い方

1.本体をひねりながら取り出し、逆にしてさし込みます。



2.キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

⚠警告

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒をガソリンなどの可燃物の近くで使用しないでください。引火するおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

無断複製禁止

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

こんな状態がバッテリーあがりです。

●スターターがまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。

●ヘッドランプがいつもより暗い。

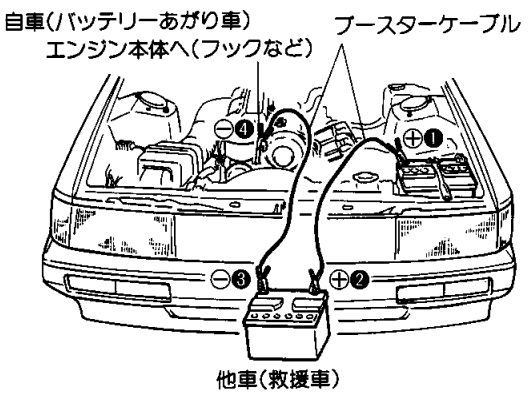
●クラクションの音が小さい。または鳴らない。

ブースターケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

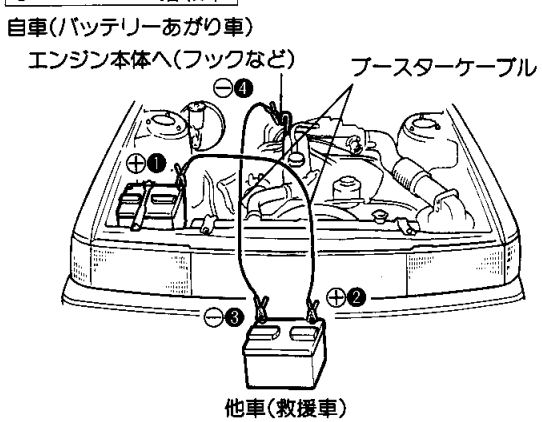
●救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1.ブースターケーブルを図の番号の順につなぎます。

1G-FEエンジン搭載車



3Y-Eエンジン搭載車



⚠警告

❹の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠警告

●ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

●火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあり危険です。

⚠注意

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

2.救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

⚠警告

充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮ふに着くと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

3.2の状態のまま、自車のエンジンをかけます。

4.自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースターケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリンスタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。

絶対に押しがけによる始動はやめてください。

アドバイス

バッテリーがあがりやすい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

無断複製禁止

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを切ったままライトをつけたり、ラジオ、カセットを聞かない。

●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

●バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充を。点検方法は「メンテナンスノート」をご覧ください。

オーバーヒートの処置は…

こんな状態がオーバーヒートです。

●水温計の針がレッドゾーンにはいったとき。

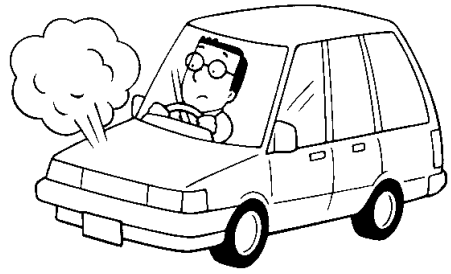
●ボンネットから蒸気が立ちのぼりエンジンの出力が低下したとき。

⚠警告

●ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

1.車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。



2.まずエンジンフードから蒸気がでているかどうか確認します。

〈エンジンフードから蒸気がでていない場合〉

エンジンフードを開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈エンジンフードから蒸気がでている場合〉

エンジンを止めます。

蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにエンジンフードを開けエンジンをかけます。

3.ラジエーター冷却用のファンが作動していることやファンベルト切れの有無を確認してください。万一、ファンが作動していないときやファンベルトが切れているときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。

4.エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部（放熱部）の著しいよごれ、ごみの付着の有無、ファンベルトのゆるみなどを点検します。

5.冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

6.早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検をしてください。

点検方法は「メンテナンスノート」をご覧ください。

無断複製禁止

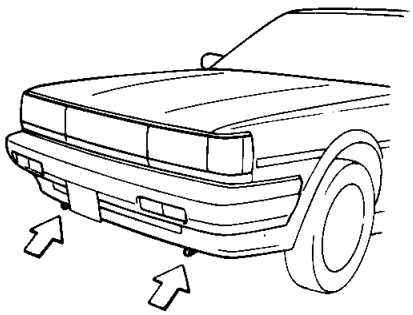
けん引してもらうときは…

けん引はできるだけJAFまたはトヨタ販売店に依頼してください。
とくに次の場合は駆動系の故障も考えられますので、けん引する前にまずトヨタ販売店にご連絡ください。

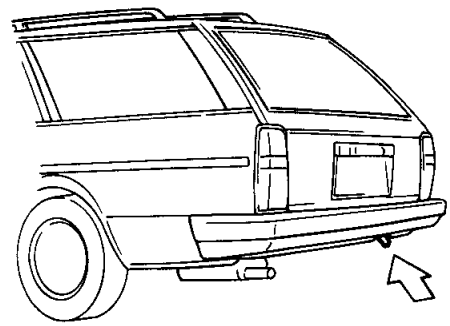
●エンジンがまわっているのに車が動かない。
●異常な音がする。

■けん引フックの位置

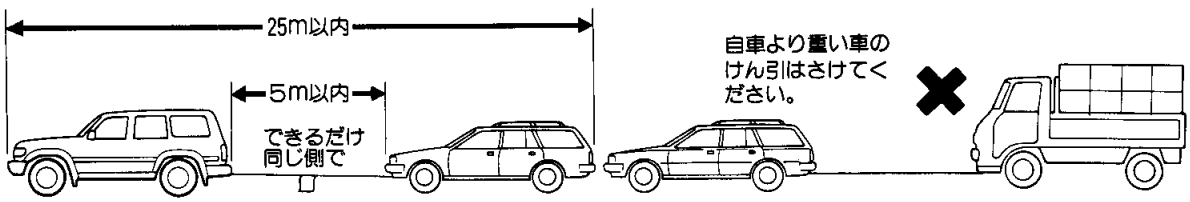
▶フロント側



▶リヤ側



けん引は、下図の方法を守ってください。



1. ボデーに傷をつけないようにしてロープをけん引フックにかけます。
   必ずけん引フックにロープをかけてけん引してください。
   けん引ロープには0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布を必ずつけてください。
2. エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、
   エンジンスイッチをACCまたはONにします。
3. チェンジレバーをⓃにします。
4. パーキングブレーキを解除します。
5. けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

⚠警告

急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり重大な傷害を生じるおそれがあり危険です。

無断複製禁止

⚠注意

●エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。

●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキに効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。

●オートマチックトランスミッション車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

無断複製禁止

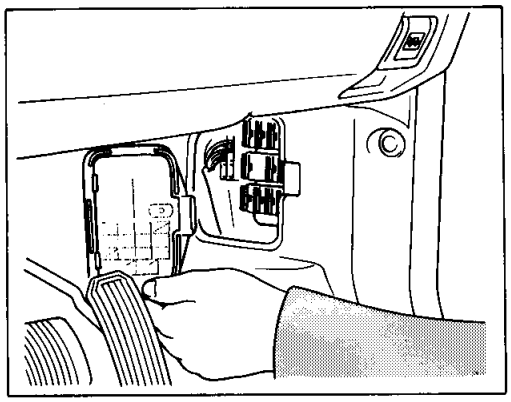
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れているか、サーキットブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておくと便利です。

■ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは、運転席足元とエンジンルーム内にあります。

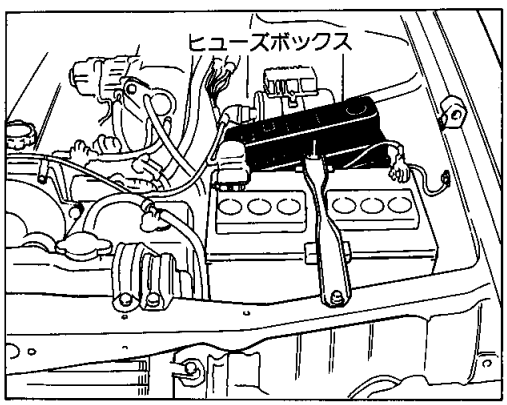
▶運転席足元ヒューズボックス



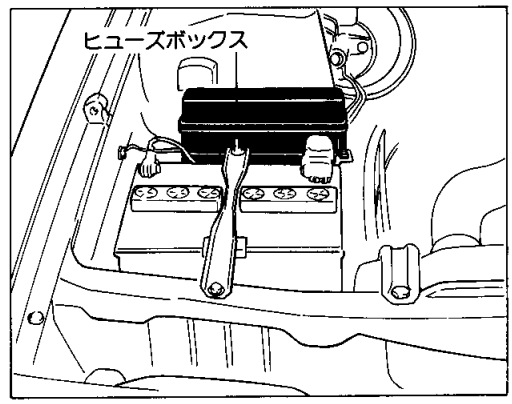
運転席足元のヒューズボックスの中には、ヒューズおよびサーキットブレーカーがあります。
ヒューズおよびサーキットブレーカーの受け持っている装置は⇨107ページを参照してください。

▶エンジンルーム内ヒューズボックス

1G-FEエンジン搭載車



3Y-Eエンジン搭載車



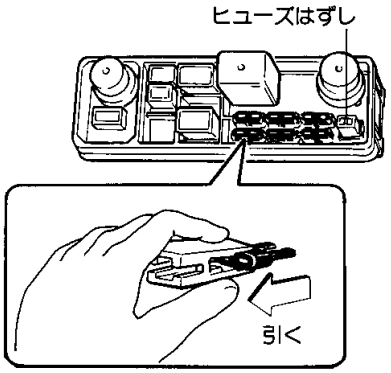
無断複製禁止

■ヒューズの交換

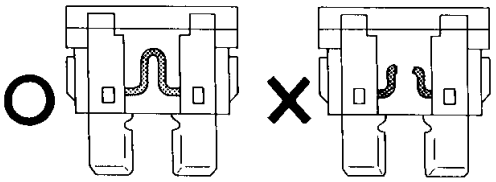
各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1.エンジンスイッチをLOCKの位置にします。

2.ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスについています。)



3.ヒューズが下図の右側のようであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。



⚠注意

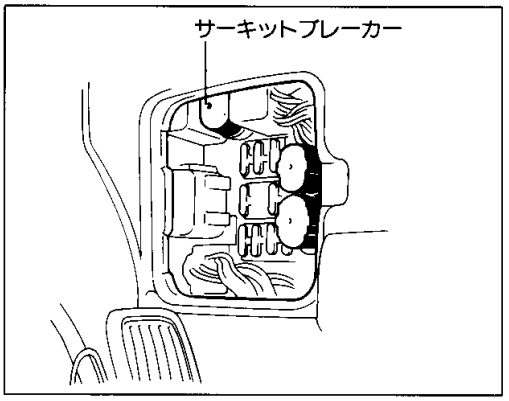
ヒューズのかわりに針金、銀紙などを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあります。

アドバイス

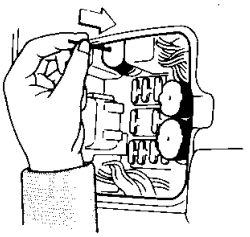
取り替えてもまたヒューズが切れる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

■サーキットブレーカー

サーキットブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



▶リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)、電気式ドアロック、パワーウインドゥが作動しないときは、サーキットブレーカーの回路がしゃ断されている場合があります。



1.エンジンスイッチをLOCKの位置にします。

2.サーキットブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がする位置まで、軽く差し込みます。

3.これでサーキットブレーカーの回路が復帰します。

アドバイス

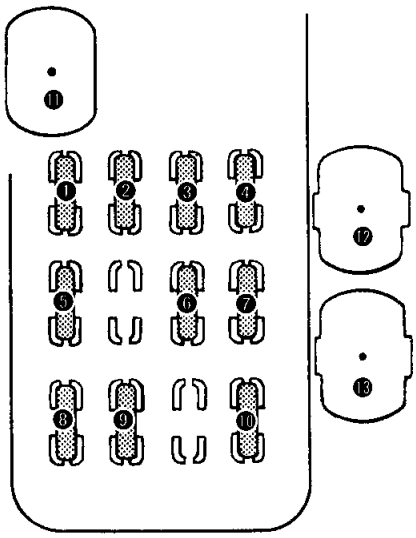
●マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。

●以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキットブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

無断複製禁止

ヒューズとサーキットブレーカーの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズボックス



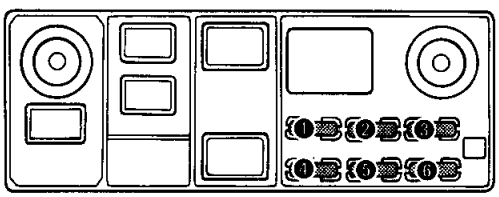
〈ヒューズ〉

❶	ストップランプ	15A	制動灯
❷	フォグランプ	15A	フォグランプ
❸	ターン	7.5A	方向指示灯
❹	イグニッション	7.5A	充電警告灯、排気コンピューター
❺	エレクトロニクスIG	15A	オルタネーター
❻	ライタ	15A	シガレットライター
❼	ラジオ	7.5A	ラジオ、電動リモコンミラー
❽	ワイパ	20A	ワイパー ＆ ウォッシャー
❾	テールランプ	15A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照明、ラジオ照明、ヒーター照明、シガレットライター照明、グローブボックスランプ、チェンジレバー位置表示
❿	メータ	7.5A	警告灯類、計器、後退灯、オーバードライブ

〈サーキットブレーカー〉

⓫	リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)
⓬	電気式ドアロック
⓭	パワーウインドゥ

■エンジンルーム内ヒューズボックス



〈ヒューズ〉

❶	オルタネータS	7.5A	オルタネーター
❷	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ（左側）
❸	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ（右側）
❹	ルームランプ	10A	室内灯、時計、半ドア警告灯、パーソナルランプ、エンジンキー照明
❺	ハザード・ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
❻	EFI	15A	エンジンコントロールコンピューター

- 予備ヒューズはヒューズボックスのカバー裏側に取りつけられています。
- ヒューズの一部、サーキットブレーカーは車の仕様によりない場合があります。
- 各ヒューズ、サーキットブレーカーの受け持つ装置は主なものについて記載しています。

無断複製禁止

ランプ類が点灯しないときは……

■フロント側電球

⚠注意

ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

▶ヘッドランプ

ハロゲン ……60/55W

▶フォグランプ

グランデエディション、LG

ハロゲン……55W

▶車幅灯……5W

▶フロント方向指示灯(兼非常点滅灯) ……21W

▶サイド方向指示灯(兼非常点滅灯)……5W

■リヤ側電球

▶方向指示灯(兼非常点滅灯) ……21W

▶制動灯／尾灯 ……21/5W

▶後退灯……21W

▶番号灯

グランデエディション、LG、GL ……5W

DX ……7.5W

▶バルブ式ハイマウントストップランプ……27W

■室内電球

▶室内灯……10W

▶パーソナルランプ……8W

▶デッキルーム灯……10W

▶グローブボックスランプ ……1.4W

アドバイス

●必ず同じW数の電球を使用してください。

●電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面のくもりにつながるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的にくもることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象であり、機能上問題はありません。

ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内部に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

無断複製禁止

無断複製禁止